

国語教育相談室

中学校
no.
83

光村図書



特集

社会生活につながる国語

—新しい学習指導要領が目ざすもの—

解説

これからの国語科の役割と指導方法

デジタル

書き込み機能
を使いこなす

書写

平仮名の原点に
立ち返ってみよう

平成29年度用
教科書訂正箇所

授業にデジタル教科書を！



光村のデジタル教科書がさらにパワーアップ！
国語, 英語, 美術の授業を強力にサポートします。

光村 デジタル 教科書

指導者用(中学校)

光村「国語デジタル教科書」
1～3年

DVD版

各72,000円+税

ダウンロード版

各23,000円+税

光村「英語デジタル教科書」
1～3年

DVD版

各75,000円+税

ダウンロード版

各24,000円+税

光村「美術デジタル教材」
わくわく美術室

DVD版

50,000円+税

DVD版(1年契約版)

12,000円+税

学校フリーライセンス：校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

学習者用(中学校)

光村「国語デジタル教科書」
1～3年

1端末(1年間利用)

各1,500円+税

体験版はホームページよりダウンロードすることができます。
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

CoNETS®

光村図書は、CoNETS(コネッツ)に
参画しています。

光村図書出版株式会社 www.mitsumura-tosho.co.jp
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL:03-3493-2111(代表) 03-3493-5741(デジタル教材お客様窓口)
FAX:03-6721-6884 E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.176 2017(平成29)年4月21日発行
発行人=小泉 茂 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報紙の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

遠くて近い？

早稲田大学教授
森山卓郎

『枕草子』で最もよく紹介される部分といえば「春はあけぼの」。確かにいい文章だ。が、『枕草子』の魅力をこれだけで判断してしまうのはよくない。

まず、注目すべきは「明るさ」。清少納言の主人である中宮定子は、その父、関白道隆の死後、実家（中関白家）の没落を経験する。権力闘争の相手は、叔父の道長。落ち込むことも多かったはずだ。そんな中で、清少納言は昔の栄光を思い出しつつ、中宮を賛美し、ひたすら明るい。「春はあけぼの」も、周囲のウケをちよつと意識して、少し意外なところをついているように私には思える。

『枕草子』には、「近うて遠きもの」という章段と「遠くて近きもの」という章段がある。次はその中の例。「①思はぬはらから・親族の仲（大切に思わない兄弟や親戚の仲）、②鞍馬のつ

づらわりといふ道（曲がりくねった坂道）、③極楽、④師走のつごもりの日、正月のついたちの日のほど（大晦日と元日）、⑤人の仲（男女の仲）」のうちの「遠くて近い」のはどれでしょう？——正解は③と⑤。クイズにもなる。

「をかし」もいろいろ。旧暦九月の雨上がり。萩が露で重そうだったのに、ちよつと日が昇ってきて、露が落ちて枝が動いて、誰も手を触れないのにさつと枝が跳ね上がるのが「をかし」という。さらに、こんなことは他人には少しも面白くないだろうと思うのもまた「をかし」と続ける——「すこし日たけぬれば、萩などの、いと重げなるに、露の落つるに、枝うち動きて、人も手触れぬに、ふと上さまへあがりたるも、いみじうをかし。と言ひたる事どもの、人の心には、つゆをかしからじと思ふこそ、またをかしけれ」（九月ばかり夜一夜降り明かしつる雨の）。清少納言は「を

かし」が大好き。

意外な「をかし」もある。十八、九歳ぐらいの髪も美しく長く、ぼつちゃり系の色白のかわいく見える美人（当時の美人の典型）が、すごい歯痛で、垂らした髪もぬれるほど泣いて、乱れかかるのも知らず、真っ赤な顔で痛い所をおさえて座っているのを「をかし」だ——「十八、九ばかりの人の、髪いとうるはしくて、たけばかりに、裾いとふさやかなる、いとう肥えて、いみじう色白う、顔愛敬づき、よしと見ゆるが、齒をいみじう病みて、額髪もしとどに泣き濡らし、乱れかかるも知らず、面もいと赤くて、おさへてゐたるこそ、いとをかしけれ」（病は）。これも「をかし」かい！

千年前の作品ではあるが、暗い現実に抗うかのように、生身の人としての思い、観察、経験が書かれている。『枕草子』も、そつ、私たちにとって「遠くて近い」！

CONTENTS

探検！言葉の森32 遠くて近い？ 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 ぼくは、国語がきらいだった 塩田雄大

特集 04 社会生活につながる国語 ——新しい学習指導要領が目ざすもの

座談会 甲斐先生の国語教室 甲斐利恵子
インタビュー 力強く生きる大人を育てるために 溝上慎一
実践提案 富高勇樹・高橋 伸

解説 新学習指導要領 18 これからの国語科の役割と指導方法 高木まさき

アクティブ・ラーニング Q&A 6 22 新しい学習指導要領実施までの移行期の指導 富山哲也

デジタル教科書 奮闘記 3 24 書き込み機能を使いこなす 渡辺光輝

先生のための 板書講座 2 28 平仮名の原点に立ち返ってみよう 坂井孝次

平成29年度用教科書 訂正箇所のお知らせ
「デジタル教科書」バージョンアップのお知らせ

たしか小学校低学年のとき、国語のテストでこんな問題が出た。
「正しい言い方に直してみましょう。」
【ママ、あれ買って。】

塩田雄大

てだれが作ったんだ。わくわくする読書だった。

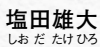
中学生のとき。形容詞の活用で、「かつ、く、う、い、い、けれ、マル」。これが、わけがわからなかった。「い、い」は同じ形なのに、「終止形」「連体形」と別のグループにする。で、「かつ、く、う」は、みんな違う形なのに、一つの「連用形」にまとめる。「用言に連なる」から「連用形」？ ちよつと待て、「近かつた」の「た」は助動詞で、用言じゃないだろ。「近くにある」の「に」だって、助詞だ。あと、「近う（ちう）寄れ」なんて普通に言う現代人、いるか？ 疑問ばかりが膨らんで、でも

大学は国文科に進んだ。ここで、小學生に【おかあさん、あれを買ってください。】を「正しい」言い方として答えさせようとしたことも、形容詞活用の呪文の

みたいに思われてる。でも、そういう一見些細なことは問題に日々さらされることで、知らず知らずのうちにみんなの体は少しずつむしばまれてるんじゃないか。よくみたいに、毒ガスにいち早く反応するカナリアみたいな特異体質の人間が、斬り込み隊長として先にいろいろ指摘することで、人類の平和のために貢献できるんじゃないか。こんな無根拠で意味不明な使命感を抱いている。

大きくなつてからだんだん気づいてきたことだけでも、どうもぼくは、ことばそのものに異様に関心があるというか、気になりすぎるといふ、特異体質らしい。普通の人だつたらなんともないような花粉の量でもくしゃみと鼻水で悶絶してしまふような、どうでもいいことばの問題が気になつて気になつてしかたがないといふ、生まれつきの言語的花粉症であるらしいのだ。ぼくはこの特異体質を、逆手にとって利用してやることにした。

通の人にはなんのかわりもないこと。



1969年神奈川県生まれ。博士（日本語日本文学、学習院大学）。NHK放送文化研究所所長・主任研究員。放送で用いる日本語の方針立案・策定に關する言語調査・研究を担当。1997年から現職。[NHK日本語発音アクセント辞典]改訂(1998年版・2016年版)などに従事。著書「現代日本語における放送用語の形成の研究」(三省堂)。NHKラジオ第一放送「ラジオ深夜便」枠内コーナー「気になる日本語」担当。

んとか生きていけるのではないかと思う。

社会生活につながる国語

—新しい学習指導要領が目ざすもの

座談会

甲斐先生の国語教室

甲斐利恵子先生と、そのかつての教え子である大学三年生の皆さんに、中学校の国語の授業で記憶に残っていること、今、振り返って思うことなどについて語り合っていました。

撮影 鈴木俊介

優しくて包容力のある田上さん。どんなこともまずは受け入れて、それから吟味する。納得した後に発揮するその行動力には、いつも驚かされていました。

独特な価値観とセンスをもつ高田さんは、学習集団の中でとても重要な存在でした。彼女がいるだけで、学習が生き生きする。そんな存在感がありましたね。

中学校時代の清水さんは、面倒なことはしたくないというタイプ。でも、おもしろいと思ったらエネルギーに向かっていく、「楽しむ力」をもった人でした。



しみず 清水さん

経済学を専攻し、社会福祉に関するゼミに所属。就職の志望先についてはこれから検討予定。

たのうえ 田上さん

日本文学を専攻し、ゼミでは『源氏物語』に取り組む。中学校・高等学校の国語教員免許取得を目指す。

か い り え こ 甲斐利恵子先生

東京都港区立赤坂中学校教諭。中学校で国語を教えて35年。光村図書中学校『国語』教科書編集委員。

たか だ 高田さん

子どもの心理学を専攻。ゼミでは、子どもの発達について研究中。玩具メーカーでの開発職を希望。

新しい学習指導要領が告示されました。これからの社会を担う子どもたちが、社会や世界と関わり合って、自らの人生を切りひらいていく——そのために目ざされるのが、社会に開かれた教育課程です。

今号では、甲斐利恵子先生（港区立赤坂中学校教諭）の座談会、溝上慎一先生（京都大学教授）のインタビュー、実践提案を通して、社会生活につながるこれからの国語のあり方について考えます。



国語って、気持ちが開いていないと学べないんです。



▲3人の「国語学習記録」。

国語は、

気持ちを開いて学ぶ教科

甲斐 私が赤坂中学校に赴任したのは、みんなが二年生になった四月。そこから、この学年の国語を担当し始めたんだよね。

田上 私はもともと国語が好きだったし、甲斐先生のことでも大好きでしたね。

高田 先生を最初に見たとき、「優しい人が来た！」って、テンションが上がった覚えがありますね。でも、実際に授業を受けて、甲斐先生はけっこう厳しい先生だったわかった。

清水 優しいんだけど、優しく怒る。それがちよつと怖かった（笑）。

高田 意外に、ちゃんとやらないと許してくれないの。

甲斐 高田さんは最初、提出物を出すのが苦手だったよね。でも、そこで叱ると、シャッターが下りちゃう。「無理です」きつ

と大丈夫よ」なんてやり取りするうちに、だんだん「やれるんだ」っていう感じになっていった。

高田 なんとなく覚えていたような……。

甲斐 そのうち、休みに廊下でぶつかって来たりするようになって。

高田 えっ！ スキンシップのつもりだったのかな。

清水 心を開いたのかな？

高田 ちよつとだけね（笑）。

甲斐 国語って、気持ちが開いていないと、学べない教科。「理解してもらっている」という信頼関係が、教師との間にないと力が出ないんです。この学年の生徒は、みんな素直ないい子たちだったから、最初の単元で、「もう大丈夫かな」って思った記憶がありますね。

「国語教室通信」は

語彙を増やす場

甲斐 今日は、卒業以来ずっと私が預かっていた、みんなの「国語学習記録」（以降「学

甲斐 何の苦もないんです。仕事という以上に楽しみでやっているから。舞妓の小桃さんの記事を見つけたのもそんなとき。舞妓に憧れていた田上さんに読んでもらいたくて、「通信」で紹介しました。

田上 覚えています。その後、その「通信」で紹介された本も自分で買ったんです。

甲斐 実は「通信」って、私がみんなに語りたいものを語るための場でもあったのかもしれない。

友達の言葉のインパクト

清水 田上さんが書いた文章が、私の「学習記録」にもはさまっている。

甲斐 「みんなにも読んでもらいたい」と思ったものは、こうしてコピーして配っていたのね。

田上 私、甲斐先生の授業は、書くことが多いから好きだったんだよね。

清水 私は書くのがすごく苦手だったから、あんまり好きじゃなかったなあ。

甲斐 清水さんは、最初の頃、思いがうま

く言葉になっていかなかったんだよね。

田上 私は、自分が何かしていないと授業がつまらないと思っていたから、書くことが好きだった。こんなふうを選んでもらえるのもうれしくて。

甲斐 書くことに本格的に取り組んだのは、「人と自然」っていう単元だったんじゃないかな。『センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン）の一節を読んで、心に残る言葉とそれについての考えを書くの。

田上 タイトルは覚えているけど、内容は思い出せないですね……。

清水 「学習記録」には全員の文章が入っているね。みんなが書いたものに、私がそれぞれコメントを入れていったみたい。

甲斐 そう。全員の文章をとじた冊子を一人一冊配って、それぞれにコメントを書いてもらったの。そしてそれを、クラス内で回覧していった。

高田 そのコメント、記憶があります。

甲斐 こういう友達からのひと言は、インパクトがあったんじゃないですか？ みんな、黙々と読んでいたよね。

問いを立てるということ

田上 先生からもらうコメントとはぜんぜん違いましたね。先生は確実に褒めてくれるけど、友達は本当に思ったことを書くから（笑）。

田上 二年生の夏休み、甲斐先生と読書感想文を書いたのをよく覚えています。

高田 ああ、がんばっていたね。

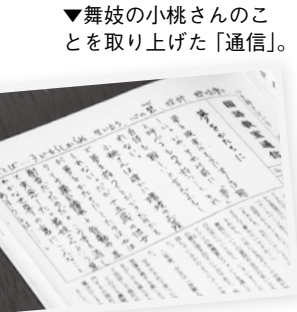
甲斐 夏休み前、短い作品を読んで、問いを立てて感想文を書く練習をしたのよね。

田上 そのとき初めて読書感想文の書き方がわかって。それで夏休みにがんばったたぶん、中学校生活でいちばんがんばったことかもしれない。

清水 私はその練習、ぜんぜん参考にしていなかったなあ……。何を讀んだの？

田上 『24人のピリー・ミリガン』（ダニエル・キイス）。自分の中で「これだ」と思ってた。あのとき考えたことは、その後ずっと、形を変えていろいろな場面で生きています。

先生は褒めてくれるけど、友達は本当に思ったことを書く（笑）。



▼舞妓の小桃さんのことを取り上げた「通信」。

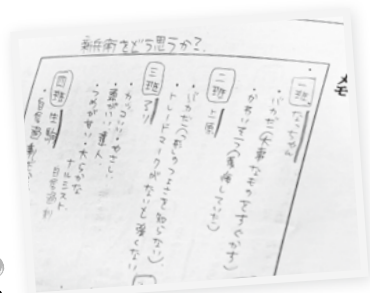


※1 一人一人の生徒が、自分が授業で使った手引きプリントやワークシート、授業記録ノートなどを全てとじ込んで1冊にしたプリント集。
※2 学習の見通しや言葉に関するコラムなどをまとめ、甲斐先生が月に2～4回程度、生徒に配布しているプリント。「漢字コーナー」「今週の本棚」などのコーナーがある。



国語は、一人で勉強するものだって、ずっと思っていた。

▼単元「『形』を考える」の話し合いのメモ。



▲みんなに配られた清水さんのノートのコピー。

「問いを立てることもできた。」って、あるとき自分で書いている！



友達と学んでよかった

甲斐 「これでいいんじゃない」って言っても、妥協しなかったよね。ずっと一人で問い続けていた。あのときは、「問いを立てる」っていうのがいかに大事なことがわかって伝えたかったんですけど、田上さん以外のみんなには伝わってはいなかったかな……。

清水 でも！ 今見てみたら、三年生の「学習記録」の後書きに「問いを立てることもできた。」と勝手に自分では思っている。」って書いてあるんです！

甲斐 そう！ それを見て、私、うれしくなりました。「最後に言ってくれた」って。大人になって問いを立てられるかどうかって、すごく大事なことです。その具体的な項目は伝えられなかったかもしれないけど、体験はして卒業できたっていうことかな。

新しい自分に出会う

高田 授業記録ノートって、授業の振り返りを書くんですね。

甲斐 そう。事実を記録する習慣をつける

もの。だから、授業で学んだことを書く。感想はちよつとでいいのよ。

清水 そうだったんだ！ 感想を書くんだと思っていた。

高田 私も。伝わってなかった……。

清水 すごく苦手だったんです。感想が書けないから。

高田 でも、清水さんのノート、よく覚えてるよ。上手にまとめていたよね。

甲斐 みんなに紹介したくて、コピーして配ったのよね。「長きやいいつてもんぢやねー」って書いてあるね（笑）。

田上 すごくいいノート。清水さんも高田さんも、ノートを取るセンスがあるよ。

清水 楽しんで書いていたんじゃないかな。

甲斐 清水さんは、情報を視覚的に整理するのが本当に上手。二年生まで「面倒なことはいや」っていう感じだったのが、三年生で「やるぞー」ってなつて、ノートも変わったよね。

清水 三年生でマイナスからのスタートだったから、がんばって書き続けました。

甲斐 新しい自分に出会っていたよね。

たんだと思います。

他者によって

自分が豊かになる

甲斐 この「学習記録」に、学んできたことと全部が詰まっているのよね。みんな、本当にがんばってくれていたんですね。

高田 これを見て、自分の考えだけでなく、他の人の考えも受け入れてきたんだなって思いました。そうやって、みんなで読んだり、問題を解決したりすることを学んだんですね。どんな仕事に就くかはわからないけど、何かを企画したりするときに役立つんじゃないかって思います。

清水 私は、がんばったのは三年生のときだけですけど……。でも、今、自分で見ても、本当にがんばっていたなって思うんですよ。これだけの過去があるんだから、これからだって、ちゃんとできるし大丈夫だって思えてきました。

田上 実は私、校誌に載せる文章に、「甲斐先生のような人になりたい」って書いた

甲斐 二年生の古典の単元は覚えていないですか？ ちよつと高度なことに挑戦した「つなげて読む つなげて考える」っていう単元。二つの古典作品に共通するテーマについて、グループで話し合ったんだけど。清水・高田・田上 やったような……。

甲斐 教師としては印象的でも、みんなにとつてはそうでもなかったりするんですね。

高田 グループでの話し合いといえば、S君とやったことしか覚えていないです。「形」を考える」っていう単元で。

甲斐 「形」（菊池 寛）を読んで、それについて話し合った単元ですね。

田上 S君と、私たち三人のグループだったのか。ぜんぜん思い出せない。

清水 「学習記録」を見て）ちゃんと話し合っているね。

高田 一人ずつ意見を言ったんだ。S君も、

んですよ。今日は、そんな先生が授業に込めていた思いを知りました。なんとなく受けていた授業だったけれど、振り返ると、力がついていたって思えることもあるし、そうではないこともありますね。私は、教師になろうかどうか迷っているの、自分が生徒だったときの視点を思い出せたのがいい体験でした。

甲斐 何を学び取っているかは、本当に人それぞれ。教師というのは、自分の思い入れや価値観だけで、結果まで期待できる仕事じゃないって、今日は痛感しました。生徒が後になって「あの頃がよかった」「あの子の意見はおもしろかった」って思い出してくれば、教師としては上々なのかもしれない。「他者によって自分が豊かになる」。学校教育でなければできない経験ですよ。それをみんなが味わってくれていたことがわかって、とってもうれしかったです。今日はありがとうございました。

力強く生きる大人を 育てるために

京都大学高等教育研究開発推進センター教授 溝上慎一みぞ かつしんいち

「学校から仕事・社会へのトランジション（移行）」を専門とし、桐蔭学園（神奈川県）の教育顧問も務める溝上慎一先生に、社会生活を見据えた学校教育の役割について語っていただきました。

学校は、社会へ出るための 養成の場

学校でしっかり学んだとされる人が、必ずしも力強く社会生活を送ることができない——今、「学校から仕事・社会へのトランジション（移行）」に問題が生じています。新しい学習指導要領で強調されている「学校で学ぶことと社会生活とのつながり」は、この問題の解消を目ざしたものである。私はそう受け止めています。

長く、学校教育は、社会に出てからの地位を保証するものでした。一九六〇年代、

八〇年代頃は、より競争力のある学校を出ることが、よい仕事や充実した社会生活と結び付いていました。時代は高度経済成長期。西洋に追いつき、西洋を追い越すために、常識や正解とされる知識を習得し、基礎学力を身につけることが何より重要でした。社会では、既存の業務や組織への「適応」が求められていたのです。そして、学校は、そのための養成の場としての機能を果たしていました。

ところが、九〇年代以降、こうした構造は崩れ始めます。バブル経済崩壊以降、高卒者・大卒者の就職率が低下し、大学卒の

フリーターやニートの存在が社会問題となったことは、記憶に新しいでしょう。そして、情報化・グローバル化などが進むにつれ、社会が求める能力も変わりました。既存の枠組みへの適応だけでなく、それを超えた新たな価値の創造にも重きが置かれるようになったのです。適応だけを念頭に置いた学校教育では、そうした社会の要請に応えることはできません。こうして、しだいに、「いい大学に入れば、いい人生を送れる」という図式は崩れていきました。

社会へ出るための養成の場としての学校教育のあり方を、今、見直す時が来ています。

「活用・探究」と 「協働・対話」のプロセスを

社会で起こるさまざまな困難に、力強く立ち向かっていける「思考力・判断力・表現力」をもつ大人を育てる。それが、これからの学校教育が見据えるべき出口だと、私は考えています。それを旨とするには、「活用・探究」と「協働・対話」という二つの新たな学習プロセスが必要となります。

複雑で予測困難な社会で、新たな価値を創造するとは、自ら課題を見つけ、解決することの繰り返しを意味します。もちろん、

リレーでバトンを つなぐように

解決のしかたは一つではないでしょう。そうした複数の解をもつ課題を解決するには、習得した知識をもとに自分の考えをもち、そこからさらなる問いを見いだす、つまり「活用・探究」の営みが不可欠といえます。そして、新しい価値を生み出すには、共通の課題を前提として、さまざまな価値観をもつ他者と議論することが求められます。日常、話すことが得意な人が、こうした場で活躍できるとはかぎりません。日常知についてのコミュニケーションと、課題解決に向けた知識を前提としたそれとは、別物だからです。単なるコミュニケーションにとどまらない、「協働・対話」のプロセスが重要なのです。

「活用・探究」と「協働・対話」。この二つが加わることで、社会に直結する学校教育の機能がしっかりと果たされるようになるはずです。

繰り返し注意して忘れないようにしたいこと、それは、「習得」を軽視していいわけではないということです。活用・探究を有意義にし、協働・対話を充実させるには、その前提としての知識の習得が求められます。習得を土台とした活用・探究、習得の中での協働・対話もまた、学校教育で経験するべき重要な学習プロセスと考えます。

私が携わる調査（※）によれば、高校二年生の半数は、さほど資質・能力を成長させないまま大学生になります。ですから、こうした学習プロセスは小・中学校・高等学校段階から積み上げていくことが重要です。全国のさまざまな学校の授業を見るなかで、ぜひ中学校の先生方に意識していただけたらと思っていることが三つあります。まず、これらの学習プロセスには、生徒が全ての学習機会の中で積極的に取り組む必要があります。それには、カリキュラム・マネジメントによって、教科外の時間も含めた学校生活全体の中で指導目標や時間を調整することが欠かせないということです。

次に、学習プロセスを充実させるには、学級経営による基盤づくりを、今まで以上に重視すべきだということです。「このクラス・この先生なら受け止めてくれる」という信頼関係がなければ、生徒が力いっぱい活動することはできないからです。最後に、ぜひ取り組んでいただきたいのは、中学校から送り出した生徒たちが高等学校でどんな姿になっているか、調査をすることです。アセスメントとよばれるこうした追跡調査が、今の教育活動を見直し、学校教育の出口を見据えたうえでの指導を考えることに結び付くのです。

小学校から大学までの各学校段階で、それぞれに精いっぱい教育をして、上の学校へとバトンを渡していく。そんな「トランジション・リレー」をイメージしながら、これからの社会を力強く生きる人を共に育てていきましょう。私も、大学でできるかぎりのことをしながら、中学校の学校現場をいつも応援しています。



1970年生まれ。京都大学高等教育研究開発推進センター教授。同大学大学院教育学研究科兼任。京都大学博士（教育学）。日本青年心理学会常任理事、大学教育学会常任理事なども務める。2015年4月より桐蔭学園教育顧問。全国の中学校・高等学校での指導・助言も積極的に行う。専門は、青年心理学（現代青年期、自己・アイデンティティ形成、自己の分権化）と教育実践研究（学生の学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事へのトランジション）。主な著書に、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（東信堂）、『どんな高校生が大学、社会で成長するのか』（責任編集・学事出版）など。

※ 京都大学高等教育研究開発推進センターと学校法人河合塾による「学校と社会をつなぐ調査（通称：10年トランジション調査）」。高校2年生（全国約400校、4.5万人が参加）の学習や学校生活、キャリア形成等を通しての成長を、大学生・社会人まで約10年間追跡する調査を2013年より実施。

実践1

「チャンプ本」をめぐろう——魅力的な提案のしかたを考える

使用教材

「魅力的な提案をしよう」(二年)「話すこと・聞くこと」

山梨大学教育学部附属中学校教諭 富高勇樹 とみ たか ゆう き

1 はじめに

生徒が、学習したことや身につけた力を「日常生活に生かせようだ・生かすことができた」と実感できるようにしたい。そして、それが将来の社会生活で生きて働く力になることを実感させたいと願い、日々の授業に取り組んでいる。なぜなら、そのような実感を伴ったときに、学習内容や身につけた力が意味のあるものとなると考えるからである。

本実践では、特に「話す能力」に焦点を当てることとした。それは、第二学年の夏休み明けから、三年生による生徒会活動の引き継ぎが本格的に行われ、部活動や委員

会活動、生徒会役員選挙など、日常生活の中で提案をしたり、自分の考えを話したりする機会が増えてくるからである。また、プレゼンテーションの技術だけでなく、目的意識や相手意識をもった表現は、将来の社会生活の中で必要とされる力でもある。

そこで、本実践では、生徒が目的意識と相手意識をもって活動に取り組めるように、「ビブリオバトル」(※)という言語活動を設定した。ビブリオバトルは、聞き手がいちばん読みたくなった「チャンプ本」を決定するところにポイントがある。話し手は、人から評価されるという緊張もあるが、「自分が選んだ本の魅力をしっかりと伝えたい、チャンプ本に選ばれたい」という思いから

相手や目的を意識した活動を行うことになる。また、聞き手は、プレゼンテーションを評価するという責任があるため、それぞれのプレゼンテーションのよしあしや共通点・相違点を意識しながら聞く必要がある。つまり、話し手・聞き手ともに、目的が明確であるという利点がある。

自分の選んだ本の魅力を紹介する活動を通して、聞き手を想定し、論理的な構成や展開を考えて話す力を身につけさせたい。そして、こうした活動は、将来的にも生きて働く力となることを十分意識させたい。

2 指導計画(全五時間)

▼目標

○聞き手を想定し、論理的な構成や展開を考えて話す。

○話し合い活動を通して、わかりやすいプレゼンテーションの構成や展開について考えを深める。

○相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解する。

▼展開

第一次(一時間)

・プリントとビブリオバトルの映像を見て、

学習の見通しをもつ。

第二次(三時間)

・紹介する本を選んで、情報を集め、整理する。

・相手を想定して、プレゼンテーションの構成メモを作成し、構成や展開を工夫して話す練習をする。

・グループに分かれ、ビブリオバトルを行う。

第三次(一時間)

・チャンプ本に選んだプレゼンテーションをグループで分析し、論理的な構成や展開について考え、話し合う。

3 指導の工夫・学習の実際

①活動にビブリオバトルを設定する

ビブリオバトルには公式ルールがある。本実践では、何を話してよいかわからない生徒が人前で話すことに苦手意識を感じてしまうことを避けるため、公式ルールを一部変更して、本の紹介時間を三分に短縮することにした。

「話すこと」に焦点化して、読解を苦手とする生徒でも紹介する情報を収集しやすいように、読解の観点(既習の学習用語)やその本にまつわる自身のエピソードなどを考えさせたり、他の本と比較させたりと、

読むことを助けるような手立てを用意して、全員がビブリオバトルに臨めるようにした。

②構想ワークシートをもとに提案する

本実践では、発表原稿ではなく、構想ワークシートだけを用意させるようにし、発表者は、相手や状況に応じて、話すことや話し方を変更してプレゼンテーションを行ってもよいことにした。スピーチやプレゼンテーションで大事なものは、聞き手の反応を見ながら、臨機応変に対応することだからである。

また、聞き手の反応を想定する際、それらを具体的な言葉(例えば、「わたしにもある」「えっ、意外だ」「続きが気になる」など)で考えさせることにした。より具体的にイメージさせることは、構成や内容を考えたり、情報を整理したりするための有効な手立てとなったと思われる。

③振り返りにICT機器を活用する

前述のように、本実践では、第三次で、プレゼンテーションを分析する活動を行った。より効果的に振り返りを行うために、ICT機器を活用して、発表を可視化できるよう工夫した。メモを取りながら聞くことも必要だが、ついメモを書くことだけに

集中してしまう生徒もいる。聞く場面では聞くことに集中できるように、今回、振り返りの時間は別に設定した。

④「協働」を学習過程に位置づける

本校国語科では、どの学習でも「協働」する活動を位置づけている。協働において、自分とは異なる考えに出会い、自他の考えを相互吟味することで、考えの深化が期待できると考えている。

本実践では、第二次・第三次で協働を位置づけた。例えば、第二次では、ビブリオバトルを行うグループとは別のグループの仲間を聞き手として話す練習を行わせた。次ページのワークシートの一段目が練習段階の構想、三段目が本番の構想である。

活動後、生徒は聞き手を引きつける構成の工夫を取り入れたり、聞き手をわくわくさせるように、内容を変更したりしていた。また、授業後の生徒の感想では、「何を伝えたいのかわかりにくいという意見を聞いて、初め、自分の述べたいことをただグラフと述べていたことに気づきました。そこで、情報を整理し、大切な情報に絞ることが必要だとわかりました。」と記述している。

このように協働は、考えの深化に有効な

手立てであったと思われる。ただ、学び合いは、一朝一夕にできるものではなく、日常的な指導の必要性も実感している。

4 おわりに

生徒の振り返りの記述の中には、これまでの自分の言語生活を振り返り、学習した

ことをこれからの生活に生かそうとする姿が表れていたものもあり、一定の成果を上げたのではないかと考えている。
今後とも国語の学習で学んだこと、身につけた力を日常の言語生活に生かせるという実感がもてたり、それが将来の社会生活で生きる力であると意識させたりする授業を心がけていきたい。

自分が伝えたい本の魅力 キーワードでプレゼンテーションの構成メモを作ろう 自分たちが考えている本は、冒険小説の一種で、主人公の成長がテーマ。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。	自分のプレゼンテーション 自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。
自分のプレゼンテーション 自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。	問題提起 自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。自分たちが読んだ本の中で、最も面白かった本。

▲構想ワークシートの例

実践2

「北の国から」発信しよう

—他の地域の人にとっての未知を考える—

使用教材

「多様な方法で情報を集めよう」(二年／「書くこと」)

北海道札幌市立向陵中学校教諭

高橋 伸

1 はじめに

自分とは違う場所に暮らす人と、それぞれの土地の特徴について交流する時間は、とても楽しいものである。テレビでもよく、地域の食や習慣の違いを取り上げている。私たちは、たくさんさんの「地域オリジナル」をもちながら、それを「全国スタンダード」であると誤解している場面が多くある。本実践は、そのような地域オリジナルを正しく認識して、他の地域の人に新聞形式で発信しようという取り組みである。

「他の地域の人にとって、何が未知なのか」を捉えることはなかなか難しい。け

れども、地域オリジナルを発見し、それを伝える喜びは、学びを推進していく力になると考える。また、中学校時代は、他の地域の人々と交流する機会がそれほど多くはない。この時期に、将来、社会に出たときのことを意識させておくのも大切な視点であらう。

2 指導計画(全五時間)

▼目標

○自分が住む地域についての情報をさまざまな方法(学校図書館、インターネット、身近な人への取材)で集め、自分の考え



溝上先生が見る

社会生活へつなげるポイント

他者を前にして「話す」「発表する」「聞く」「機会をつくることそれ自体が、社会生活へつなげる決定的なポイントです。どんなに稚拙でもいいから、何度もトライして、一歩でも二歩でも上を目指した話すこと・聞くことができるようになる機会をつくってあげたいものです。もちろん、機会だけではなく、同時に、「話す」ポイント(本の魅力を伝える、相手の評価を意識して話を構成する)、「聞く」ポイント(他のプレゼンのよしあしや共通点・相違点を意識して聞く)も与えられなければなりません。実践ではそれがしっかり押さえられています。メモの取り方については、今後、段階的に指導し、それが社会生活につながるものであると生徒に伝えていけるとよいでしょう。

この実践に限らず、日常の授業の中でも、「話す」「発表する」「聞く」といった言語活動を含むアクティブラーニングを取り入れてもらえたらと思います。日常化こそが、社会へつなげる最強法則です。

をまとめる。

○新聞の下書きを読み合い、情報の使い方や構成のしかたを交流することで、よりよい作品を作り上げる。

▼展開

第一時

・学習の見通しをもち、既習の事柄とのつながりを考える。

・教科書を読んで、学習の流れを捉える。

・学校図書館やインターネットを使って、記事にする情報を複数集める。身近な人への取材も試みる。

第二時

・収集した情報を交流し、テーマを決める。
・本物の新聞から学んだ新聞のルールをもとに、記事の構成や見出しを考える。

第三時

・集めた情報をもとに下書きをする。

第四時

・下書きをグループで読み合い、工夫した点や改善点を交流する。

第五時

・前時の交流を生かして清書する。
・交流場面や完成した新聞から学びを振り返る。なお、新聞は廊下に掲示し、他のクラスの作品も見られるようにした。

③ 指導の工夫・学習の実際

① 未知を考える

テーマ選びの際には多くの候補を挙げ、交流を通して絞り込んでいった。他の地域で暮らした経験をもつ級友などの意見を聞きながら、他の地域の人が知らないことを探っていった。

【生徒が取り上げたテーマ】

- ・地域特有の食べ物やその名前
 - ・道路や信号、タイヤなど、交通について
 - ・言葉や言葉の使い方
 - ・屋根や窓、玄関など、建物の工夫
- 「衣」に関わる冬・支度について

② 広く情報を収集する

情報収集のために、学校図書館を利用する時間を設けた。今回のテーマでは、社会科学や産業の棚へ足を運ぶ生徒が多かった。図書館に足繁く通う生徒でも、文学のコーナーにしか行かないことが多い。また、図書館にほとんど行かない生徒の中には、文学以外の本も所蔵されているということを初めて知った者もいた。図書館で事典類を初めて手に取り、それらが情報収集に役立つことを実感している生徒もいた。

③新聞の構成を活用する

今回の新聞では、一つの記事の字数を二百字から四百字程度に設定した。この字数は、調べた複数の情報を組み合わせるのに適している。

重要度が高い記事は、見出しが大きく字数も多いこと、見出しは記事の要約となることなど、実際の新聞の構成は、情報伝達の工夫を学ぶのに適している。部分的に記事を入れ替えることが可能なことも、新聞

溝上先生が見る
社会生活へ
つなげるポイント

実践では、情報の収集、構成といった個人学習だけでなく、他者と議論や助言をし合うなどの協働的活動も組み込まれています。このようにバランスよく個人的・協働的な学習を行っていくことが重要です。本実践が興味深いのは、身近な他者(家族)に取材をさせているところです。国語の授業では、登場人物や書き手といった「他者」の気持ちや考えを理解する、共感するといった学習が、小学校以来定番のものとなっていますが、生徒にとってその他者は非日常空間の他者であることが多いといえます。身近な他者への取材はその「他者」を、生徒にとつての日常空間へと一気に近づけます。

紹介されている「生徒のアドバイス」も、生徒に技術化させるべく学習課題としたいところです。多くの生徒は質問をするのが苦手です。トレーニングを受けた学校の生徒は、質問が止まらないというのを何度も見たことがあります。こうした一つ一つの小さな実践を積み上げていくとよいのではないのでしょうか。

④ 清書の前の交流を有効活用する

下書き段階での交流により、互いにアドバースを合ったり、他の人のよい点を自分の新聞に反映したりすることができる。

【生徒のアドバイス（交流の中から）】

- ・下の記事を先に読んだほうが理解しやすいので、上の記事と入れ替えたらいいと思います。
- ・使っているデータより新しいものが市のホームページに出ていますよ。
- ・見出しは、記事の結論部分を短くして書くといいです。

⑤ 学びの見通しと振り返り

学習の初めに、既習事項とこれからの学習を結び付ける時間を設けた。小学校や中学校一年生で学んだことを思い出し、それがこの学習で使えそうだと考える生徒がいる。また、教師が新たに説明しようとしたことが、他教科の既習内容である場合もある。このようなことを踏まえて、学習の終

北緑新聞
向談中時談
二年一組

向陵中学校
2年1組

北の混交林

五月上旬北海道で
花が同時に開花す
る。本州では梅はさ
らふしあとに桜がさ
く。だが、これほどい
うことばうらうか。これ
に反して、北海道の気候
と花の性質が関係して
いる。梅は冬の休眠が浅
いため、三月下旬に凍
土が融し、三月下旬に
花を盛につく一方

桜は、冬、長い冬期が
続く。休眠打破にさ
かたむける。これは一
時的に花を盛にする
が、その後の厳寒で、そ
の間に開花する準備が
できてしまつた。そ
して温かくなると急
にスグに花を開花す
る。だから、春眠といふ
休眠が浅くない休眠
打破がはたらないため

北海道の開花が
九州の開花より一月
ほど遅い。北
海道の開花が
本では休眠打破になり
一頃に開花するが、
三月下旬に花を盛にす
る。そして桜は梅より
三月下旬から、春寒が上
つてから

北
海道の開花は、梅より
約一月遅い。北
海道の開花が
本では休眠打破になり
一頃に開花するが、
三月下旬に花を盛にす
る。そして桜は梅より
三月下旬から、春寒が上
つてから

森林の広さ

るも約八七万平方キロメートルある。北海道の自然は雄大な広さを感じており、全国一位である。これは、なほみかである。それと同時に、人間も森林に支えられて生きていくことを、忘れてはいけぬのだ。

身近な変化

は昔は北海道にはス
ていさうだ。対策
をとりべきなのは、

世界遺産へ

二〇〇五年知床まちが日本で三番目に世界自然遺産に認定され、今もなお自然そのものの姿で維持されておる野性の天然記念物や、少種も生息している千二百×千六百メートル級の山が連なり、その山々は毎のすそ

てゐるんだ。これだけ
斤やマスの湖上に遊
び回つてゐるらしい。これ

けにござる、知
には自然がありなす
るゝも激しい異議が
しるゝ人の手にすゝ
符で出ること、よ
巻展すること、願

編集後記

広大な自然は其の
の魅きである。保護
しなればという思
がより一層強ま、

▲生徒が作った新聞の例

これからの国語科の役割と指導方法

横浜国立大学教授 高木まさき



1958年、静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語ワーキンググループ委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。「ことばと学びをひろく会」会長。著書に『「他者」を発見する国語の授業』（大修館書店）など。光村図書 小学校・中学校「国語」教科書編集委員を務める。

前回の学習指導要領改訂から約十年。子どもたちを取り巻く社会情勢は大きく変動し、さらに今後も、これまでの枠組みでは対応できない課題が生じてくると予想されます。こうした背景を受け、新しい学習指導要領は、どんな子どもを育てることを目指しているのか、いっしょに考えていきたいと思います。

1 二〇三〇年の社会を見据えて —学習指導要領改訂の背景—

今回の学習指導要領の改訂の背景について、中央教育審議会の答申（二〇一六年十二月・以下「答申」）では、現在の子どもたちが社会人となる二〇三〇年を念頭に置き、「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難」としたうえで、「社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になる」と提えています。

欧米の研究者によると、将来、子どもたちの六五％は、現在存在していない職業に就くことになったり、今後十～二十年程度

で現在の仕事の半数近くが自動化されたり、人工知能に取って代わられたりするという「未来予測」もなされています。つまり、現在の学校での学びが、はたしてこれからの社会で通用していくのか、という大きな問いが投げかけられているのです。

さらに、学校現場の現実的な問題として、学力格差の広がりということもクローズアップされてきました。学力低位の子どもをいかにすくい上げていくかは、喫緊の課題となっています。

新しい学習指導要領では、こうした時代の流れの中で、子ども一人一人が未来の創り手として、決まった答えのない課題に積極的に取り組み、試行錯誤しながら新しい

価値を創造できるようにすることを目指しています。

2 「学びの地図」の提示 —新しい学習指導要領の理念—

このような背景に基づき、新しい学習指導要領では、これからの社会を創り出す子どもたちが学校教育を通じて身につけるべき資質・能力とは何かを明らかにした「学びの地図」としての枠組みづくりが図られました。そこでは、教育課程が、学校と社会や世界との接点になり、現在の子どもの教育と未来とをつなぐ役割も期待されています。

次項では、①②について、具体的にどのように変わったかを解説します。

3 「見方・考え方」を踏まえた指導を—国語科はどう変わるのか—

まず、構成上で現在の学習指導要領と大きく変わったのは、「目標」と「内容」です。前項で述べた「①何ができるようになるか（資質・能力）」を次の三つの観点に分け、それぞれに対応した目標が立てられています。

- ・ 知識及び技能
- ・ 思考力、判断力、表現力等
- ・ 学びに向かう力、人間性等

また、「内容」は、それぞれ次のように二本柱で再編されました。

知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方の情報	(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方	(3) 我が国の言語文化
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと

実際の学習内容・指導事項については、現在の学習指導要領と大幅な変更はありません。ただ、言語能力の育成という点で、大きく五つの改善がなされています。

■ 新学習指導要領 実施スケジュール

	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	H31年度 (2019)	H32年度 (2020)	H33年度 (2021)
小学校	中教審答申 (12月)	新学習指導要領告示 (3月)	周知・徹底期間	先行実施期間	全面実施	全面実施
中学校				先行実施期間	改訂教科書 使用開始(4月)	改訂教科書 使用開始(4月)

そうした改善のために、答申では六つのポイントが挙げられています。ここでは直接国語科の指導に関わる次の三点を挙げておきます。

- ① 何ができるようになるか（資質・能力）
- ② どのように学ぶか（学習・指導方法）
- ③ 何が身についたか（学習評価）

①は、従来の「（子どもが）何を知っているか」「（教師が）何を教えるのか」から大きく転換しています。「何ができるようになるか」は、言い換えれば「（国語を）何のために学ぶのか」「（国語を学んで）どんな力が身につくのか」という教科の意義を明確化したものです。

国語科においては、「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」を「言葉による見方・考え方」と位置づけ、教科の本質的な意義としています。これは、例えば説明的な文章を読むとき、社会科や理科ならば書かれている内容を理解するところまでが求められますが、国語科では、内容がどう論理的に表現されているか、どう書かれているからわかりやすいのか、などについて考えることを意味しています。

■ 言語活動例一覧

	小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
A 話すこと・聞くこと						
ア	紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。	意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。	紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。	説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。	提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。
イ	尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。	質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。	互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。	それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動。	互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。
ウ		互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。	それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。			
B 書くこと						
ア	身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。	本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。	関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。
イ	日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。	社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。	情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。
ウ	簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。	詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。	短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。	
C 読むこと						
ア	事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。	説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。	説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。	報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。	論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて議論したり文章にまとめたりする活動。
イ	読み聞かせを聞いたり物語などを读んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。	詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。	詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
ウ	学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。	学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。	本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。	実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。

(1) 語彙指導の系統化

【知識及び技能】では、小・中九年間を通して語彙指導が系統化されました。中学校は、「事象や行為、心情を表す語句」(二年)、「抽象的な概念を表す語句」(二年)、「理解したり表現したりするために必要な語句」(三年)が取り上げられ、話や文章の中で使いながら自分の言葉として使いこなせるようにするとともに、語感を磨くことが求められています。こうした語彙指導は、現在の教科書では、「感想を表す言葉」(二年P295)、「感情を表す言葉」(二年P292)、「抽象的な言葉」(三年P273)を使いながら整理し、さらに「続けてみよう」(一年P24、二年P14)などを利用しながら充実させていくことができるでしょう。

(2) 情報の扱いに関する項目の設定

同じく【知識及び技能】に、「原因と結果」「意見と根拠」「具体と抽象」などの「情報と情報との関係」や、「比較や分類」「関係付け」などの「情報の整理の仕方」に関する項目が立てられました。

この技能を養うには、例えば、説明的な文章では、文章中の情報の関係を視覚的に捉えて整理させることが効果的です。そのために、デジタル教科書などICT機器

を活用するのもよいでしょう。

(3) 「考えの形成」の重視

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての領域で、学習過程の中で「自分の考えの形成」を図ることが明確化されました。これは、現在の教科書でも、「自分の考えをもとう」(学習の手引き)などで触れていることですので、より意識的に指導を続けていただきたいと思います。

(4) 主体的・対話的で深い学び

答申までの段階では「アクティブ・ラーニングの視点」として示されていたものです。前項で述べた「②どのように学ぶか」に対応しています。

「主体的・対話的」については、ある程度イメージしやすいと思いますが、「深い学び」が少し捉えづらくもかもしれません。これは、具体的にいうと、例えば物語を読む学習では、ただストーリーを追うだけでなく、題名、人物、場面、心情など、読み取ったことの関係性をより多く発見し、読み方について自覚していく学びのことです。そのためには、教科書の巻末折込「文学的(説明的)な文章を読むために」を使いながら、読みの観点を常に意識させていく指導が

切になります。

(5) 言語活動例の整理・系統化

【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】は言語活動を通して身につけていくことが大切です。これは、現在の学習指導要領の考えと変わっていません。今回の改訂では、左ページの「言語活動例一覧」にあるように、言語活動例を整理・系統化し、現場の負担軽減とともに、創意工夫の幅を広げられるように改善しています。

(1)～(5)の項目は、国語科の「見方・考え方」である、「対象と言葉、言葉と言葉の関係」、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉え、その関係性を問い直して意味付け」ながら言葉への自覚を高めるための改善といってもいいでしょう。

新しい学習指導要領の実施にあたって、先生方には、必ずしも大幅な方向転換を迫るものではないと考えられますが、国語科の「見方・考え方」を踏まえ、言語活動をより充実させることで、言葉への自覚を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてご尽力いただければと思います。

第六回

22

課題解決的な言語活動を取り入れた授業を継続しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点で指導の改善を進めることが大切です。

文部科学省は、新しい学習指導要領を発表しました。アクティブ・ラーニングについては、「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」という文言で、各教科等の指導の重点として共通に位置づけられました。また、これに先立って示された「幼稚園教

- ・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成（小中…国語）
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど）の充実（小中…総則、各教科等）

○対話的な学び
生徒の話し合いが形式的に終わることなく、本気で考えを伝え合っているか。

○深い学び
学習の中で言葉についての気づきがあり、指導事項に基づいた言語の能力が確実に身についているか。

「字のない葉書」を例に

では、現行教科書の学習の手引きを活用した移行期の授業について、「字のない葉書」(二年)を例に考えてみましょう。

単元の目標の確認は、主体的な学びに欠くことのできないものです。これまでの学習経験を踏まえつつ、新たに学ぶ内容について学習のイメージを作ることが大切です。

例えば、既習の「大人になれなかった弟たちに……」（二年から、ヒロユキを棺に入れたときに母が初めて泣いた場面を取り上げ、「言動」から人柄や心情を捉えることとのイメージをもたせます。また、父親に対する「私」の思いを捉えるために、「私」

いずれも、個々の考えを交流によって深めることに適した課題だといえます。

①については、父親を表す多様な語句（筆まめ、罵声、折り目正しい、訓戒、威厳、暴君、照れ性など）への着目を基本にした

● 人物の言動の意味を考え、人柄や心情を捉える。

父親に対する「私」の思いについて、感じたことや考えたことを話し合ってみよう。

この文章は、筆者の二つの思い出を中心にして書かれた随筆である。それぞれの内容を整理しよう。

①最初の思い出から想像される父親の人物像を簡潔にまとめてみよう。

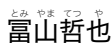
化に着目して想

③ なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているかを考えよう。

自分の考えをもうとつ

父親に対する「私」の思いについて、自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表してみよう。

②は、この単元の学習の中心となる課題です。目標に照らし、人物の言動が書かれた部分を見つけるとともに、その意味を考え、人柄や心情を捉えることとなります。それを交流する際、「優しい」「妹



③は、さまざまな考えが想定できる課題です。個々の生徒の生活体験からも影響を受けるでしょう。このままの形で問いかけても考えがまとまらない生徒もいるので、例えば、前述したように「父親に手紙を書く」という活動を取り入れることで、考えが表しやすくなるかもしれません。

書き込み機能を使いこなす

今回は、指導者用デジタル教科書の機能の中でも、もっとも活用する頻度が高いと思われる、書き込み機能についてじっくりと考えてみたいと思います。

1 頭と身体を使って読む

皆さんは、本を読むときに、線を引いたり、コメントを書いたりすることはありますか？ もしかすると、「本を汚すなんてもつての外！」という人のほうが多いかもしれません。

私は、断然「書き込みをする」派です。本を読むときには、書き込み用のボールペンや、付箋がないと落ち着きません。それがないときは、ページの角をちょこつと折ってその場をしのぐほどです。

しかし、初めからそうだったわけではありません。きっかけは、大学の恩師である齋藤孝先生(※)との出会いです。とにかく本によく書き込みをする先生で、黒・赤・青・緑の四色ボールペンをいつもそばに置き、じゃんじゃんに書き込

2 国語科の学習における書き込み



千葉県生まれ。千葉大学大学院修了。千葉県の公立中学校教諭、千葉大学教育学部附属中学校教諭を経て、現職。共著書に『中学生を作文好きにする！新レシビ60 & ワークシート』（明治図書出版）など。

あらためて考えてみると、私は自身自身の読書だけでなく、国語科の授業でも、生徒によく書き込みをさせているなあということに気づきました。

ちなみにここでの「書き込み」とは、「読み手が本文に何らかの情報を付け足すこと」という意味です。例えば、傍線を引いたりマーカーで色を付けたりすること、丸で囲んだり線で結んだりといった目印を付けること、マークやコメントなどの情報を書き込むこと、付箋を挟むことなど、全てをひっくるめて「書き込み」とします。

思いつくままに、国語の授業で何を書き込んでいるかを左ページに書き出してみます。

●「星の花が降るころに」の学習で

図1は、「星の花が降るころに」(二年)で生徒が書き込みをしたプリントです。冒頭と結末を並べて比較し、表現から読み取れることをどんどん書き込んでいきます。そうすることで、作者が、銀木犀などの何気ない描写の中に、主人公と夏美との関係の変容を、とても意図的に忍び込ませているということがわかってきます。

国語の学習での書き込み

①表現の工夫を指摘するために

- ・表現技法(擬人法・反復などの修辞法)が使われているところを探す。
- ・象徴的な表現、暗示をしている箇所などを指摘する。

②自分の読みを確認するために

- ・最も大事だと思うところを探す。
- ・お気に入りの表現、最も共感できるところなどを指摘する。

- ・登場人物の心情がよく読み取れる箇所を見つける。
- ・人物設定や、置かれている立場、状況などがわかる表現を探す。

③文章の構造を浮き立たせるために

- ・序論・本論・結論などの段落分け、文学作品の場面分けをする。
- ・対比や類比、言い換え表現などを明示する。

- ・キーワード、主張と根拠、具体例のつながりなどを示す。
- ・「はじめに」「次に」などの順序を示すセットの言葉に注目する。

- ・接続詞をチェックし、論理関係を確認する。
- ・文末表現をチェックし、書き手の主張をつかむ。

④感想・意見を書き出すために

- ・読み進めながら感じた自分の「つ

- ・「つっこみ」を入れたり疑問をもったりしながら批判的に読む。
- ・賛成・反対や共感・反感など、読者として感じたことを書き込む。
- ⑤関連する情報を書き足すために
 - ・漢字の読み、言葉の意味などの情報を書き足す。
 - ・調べてわかったことなどを書いて付け加える。

こうして見ると、「書き込み」とひと言でいっても、いろいろな読みの学習要素が埋め込まれていることがわかります。例えば「少年の日の思い出」(二年)の授業では、「僕」がエーミールを呼ぶときの呼び名を全て探し、丸で囲みましよう」と指示をして、書き込みをする学習活動を行うなどしています。

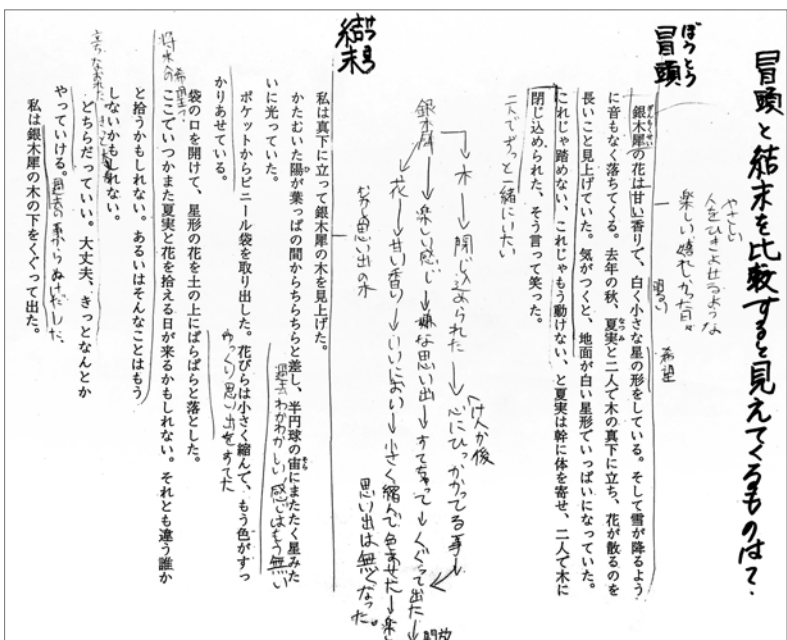


図1 「星の花が降るころに」で使用したプリント

※ 明治大学文学部教授。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。3色ボールペンを活用した読書を実践。



図3 書き込みツール

- ・色…赤・青・緑・黄色・黒・白の6種類が基本。濃いものと薄いものが選べる。(他に、好きな色を自由に設定できる。)
- ・線の太さ…5種類。
- ・線の種類…棒線・点線・二重棒線・矢印。
- ・図形…四角囲みや丸など。

少し前置きが長くなりました。では、この書き込みの学習が、指導者用デジタル教科書の登場によって、どのように変わっていくか考えてみたいと思います。

3 デジタル教科書と書き込み

デジタル教科書の登場によって、書き込みが格段にやすくなったと感じています。特に「読むこと」の授業では「本文を根拠にして解釈を吟味する」ことが中心的な学習内容となるので、この機能をどんどん活用することで、効果的、効率的な学習が期待できます。

ここで、デジタル教科書のメリットを考えてみます。一番のメリットは、プロジェクタで拡大し、投影することで、全員が本文を見て、検討することができるということです。今までは、模造紙に書き出したり、黒板に本文を写したりしなければできなかったことです。そんな大がかりな準備は、なかなかできないですよね。デジタル教科書によって、その労力から解放されました。

次のメリットは、書いたり消したりが簡単にできるということです。手書きと

違って、デジタル教科書なら、一度書いたものを容易に書き直すことができます。「とりあえず引いてみよう」とか「やっぱりこれはやめよう」といった試行錯誤をしながら書き込む活動ができるようになります。

①「野原はうたう」の学習で

図2は、「野原はうたう」(二年)の詩に書き込みをした画面です。生徒は自分の教科書に、表現の工夫について気づいたことをどんどん書き込んでいきます。それを発表させながら、教師がデジタル教科書に書き込んで全体で共有していきます。

こんな感じで「生徒が自分の教科書(プリント)に書き込む」↓「それを教師がデジタル教科書上で書き込んで全体に共有」という授業がしやすくなりました。

多彩な書き込みツールが用意されているのも、デジタル教科書のいいところです。左ページ図3のように、さまざまな

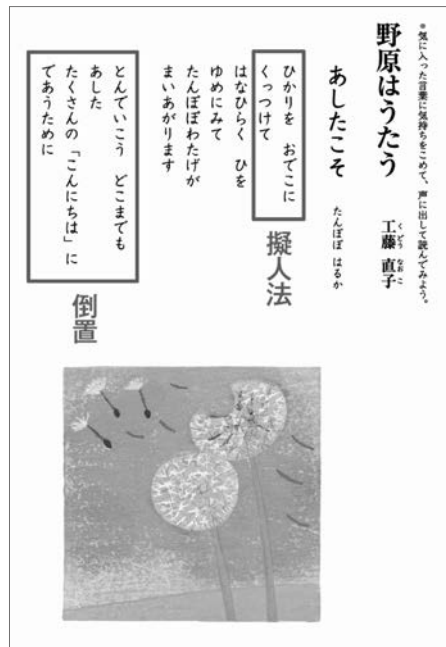


図2 「野原はうたう」での書き込み

②「花曇りの向こう」の学習で

「花曇りの向こう」(二年)の授業では、「主人公のビフォー&アフターを読み取る」というテーマで学習に取り組みしました。ビフォー(冒頭の主人公の様子)とアフター(後半の主人公の変容)がわかる表現を本文から探し、比較するという学習活動です。

ビフォーを「青」、アフターを「赤」、変わるきっかけとなった出来事を「黄色」と、色分けをしながら書き込んでいくことで、いろいろな観点で読みを進めることができました。生徒がひとつおり線を引いた後で、「ビフォーの線を引いた中で、いちばん重要だと思うところは?」「ベスト3は?」「きっかけになったことを一つに絞ると?」などと焦点化させて全体で共有していくと、さまざまな意見が出て、さらに読みが深まると思います。

4 デジタル教科書の今後は?

デジタル教科書で書き込み機能を活用する場合、今後に期待したいのは、書きやすさや書き心地の問題です。端末の性能にもよりますが、現状では、紙に書く

色、線や図形、太さなどを選択することができます。この中で私がよく使うのが「薄い黄色」の「太め」の「直線」です。これでマーカーのような使い方ができます。その他、「図形」で文章のまとまりを四角で囲むという使い方も便利です。学習活動で重要なのは、これらの線や色、形に意味をもたせ、読み分け、使い分けをさせるということでしょう。特に、デジタル教科書の書き込みツールには何種類もの色が用意されているので、この色分けを工夫することで「読みのスイッチ」を切り替えることができるのです。

ほどこにはきれいな書きません。だから、現時点では、「これは紙とは違うんだ」と割り切って使うことが必要だと思います。

他に、現状ではまだないけれどもいいなという機能は、書き込みの共有機能です。Kindle(通販会社のアマゾンが提供している電子書籍)には、「ポピュラーハイライト」といって、本文中に「○人がここにマーカーを引いている」と表示するソーシャル読書機能があります。電子書籍では、もうそんな「読み方」もできるようになってきたんですね。数年もしたら、誰もがこういうソーシャル読書機能を使いこなして本を読むのが当たり前になってくるかもしれません。

だとしたら、国語の授業も変わらないうえ、です。学習者用デジタル教科書を一人一台の端末で使える環境で、他の生徒が本文中に書き込んだコメントやアンダーラインなどを共有できる機能があれば、授業での活用場面が一気に広がると思います。情報の共有や検索、保存は、デジタルが最も得意とするところのはず。今後のバージョンアップに期待しています。

国語 平成29年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成29年度用教科書では、平成28年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

なお、教科書の訂正に伴いまして、教科書紙面やその内容を含む各種指導書につきましても、訂正を必要とする箇所が生じます。合わせてご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

学年	ページ	行など	28年度	29年度
1年	18	下4	間を取る	間を取る
	31	7	聞かれて	きかれて
	47	新出漢字「較」	較差	比較
	48	学習の窓	根拠	根拠
	58	上5	間の取り方	間の取り方
	58	学習の窓	間を取ったり	間を取ったり
	75	脚注	十七か国語で	十七の言語で
	82	下6	早速	早速
	130	左上	各項目	各項目
	131	レポート例	35名にアンケートを実施	35名にアンケートを実施
	134	下2	漢字の音の違いに注意して	漢字の読み方の違いに注意して
	140	下3	我が世たれぞ	我が世たれぞ
	179	下17	180ページ 根拠を明確にして魅力を伝えよう	180ページ 根拠を明確にして魅力を伝えよう
	207	脚注	ローマ史	ローマ建国史
	296	凡例8行目	くく内は手書きの際に許容されている字形。総画数・筆順はこの字形に合わせて示す。	くく内は、手書きの楷書の習慣による字体。総画数・筆順はこの字体に合わせて示す。
	311	凡例7行目	くく内は手書きの際に許容されている字形。	くく内は、手書きの楷書の習慣による字体。
2年	22	脚注	アラスカやシベリアなどの極北地帯に居住する民族。	アラスカ北部からカナダ北部、グリーンランドに居住する民族。
	107	11	宛名	宛名
	168	下21	⑥司会者によるまとめ	⑥司会によるまとめ

	236	脚注	【注意語句】	【注意する語句】
	285	中5	芝居	芝居
	293	凡例8行目	くく内は手書きの際に許容されている字形。総画数・筆順はこの字形に合わせて示す。	くく内は、手書きの楷書の習慣による字体。総画数・筆順はこの字体に合わせて示す。
	309	凡例7行目	くく内は手書きの際に許容されている字形。	くく内は、手書きの楷書の習慣による字体。
3年	11	表上段	説明・記録	説明・論説
	52	下14	イ修業	イ修業
	60	上8	その一方で、	そのいっぽうで、
	151	5	朽ちて	朽ちて
	190	注①	二〇一二年現在の人口は約六百三十万人。	二〇一五年現在の人口は約六百三十万人。
	190	注⑦	七万五千人から八万人	約七万五千人
	195	1段20行目	冥界	冥界
	201	脚注	課す	課する
	207	上14	⑦父兄が同伴する。	⑦実兄と食事をする。
	208	下5	彼の話は教訓に富み、うるところが大きい。	この修行からうるものは大きい。
	253	注⑥	アラスカやシベリアなどの極北地帯に居住する民族。	アラスカ北部からカナダ北部、グリーンランドに居住する民族。
	263	下5	平清盛、太政大臣となる	平清盛、太政大臣となる
	278	凡例8行目	くく内は手書きの際に許容されている字形。総画数・筆順はこの字形に合わせて示す。	くく内は、手書きの楷書の習慣による字体。総画数・筆順はこの字体に合わせて示す。
	290	1段目「修」	室むろ 岩室 修シュ 修業（修業とも） 仲チュウ 仲介 伯仲	得うる 名声を得る 修シュ 修行 幸さち 海の幸
	291	凡例7行目	くく内は手書きの際に許容されている字形。	くく内は、手書きの楷書の習慣による字体。
	306	「読むこと」欄「か」	□近代文学・近代詩 ……93・179・256・266	□近代文学・近代詩 ……93・179・256・265

中2国語教科書(光村図書)に載っている 「アイスプラネット」が 1冊の本になりました!



ぼくは、原島悠太。中学2年生。
家には、いそうろうしている
38歳の「ぐうちゃん」がいる。
ぐうたらしているけど、
ぼくはぐうちゃんが好きだ。
なぜなら、世界のあちこちで体験した話を、
いろいろ聞かせてくれるから。
ぐうちゃんの話は、信じられないような
「ほら話」ばかりだけど、
とにかくおもしろいんだ――。



椎名 誠

アイスプラネット ICEPLANET

ぐうちゃんの「ほら話」の数々

- アナコンダが馬を呑み込むのを見た!?
- 梅雨や台風は「うらやましい」もの
- 体重0.5トンの男
- 7本足の生き物がいる!?
- 地球の中にある「水の惑星」
- おやつに幼虫を食べる人たち
- …など



定価: 本体1,200円(税別)
ISBN 978-4-06-218233-1

光村「デジタル教科書」中学校版バージョンアップのお知らせ

平成29年度用教科書の訂正に伴い、本年3月にデジタル教科書およびCoNETSビューアのバージョンアップを行いました。

バージョンアップがお済みでない場合は、弊社ウェブサイト「デジタル教材」ソフトウェアサポートの手順書をご覧ください。バージョンアップを行ってください。ご不明な点がございましたら、お手数ですが、下記「デジタル教材お客様窓口」までご連絡くださいますようお願い申し上げます。



「2017年3月17日『デジタル教科書』中学校版バージョンアップのお知らせ」ページ内の手順書をご覧ください。

デジタル教材お客様窓口

Tel : 03-3493-5741 ※受付時間 平日9時から17時まで(12時から13時を除く)
Fax : 03-6721-6884
E-mail : digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行

最新号

第49号(2017春)

特集「飛べ、おとうさん！」

定価: 本体1,000円+税 / ISBN978-4-8138-0000-2

おかあさんでも、おばあちゃんでも、おじいちゃんでもない。今回の主役は、おとうさん! 童話という舞台上でなかなか活躍の機会が少ないおとうさんにスポットライトを当てました。

〈表紙〉ヨシタケシンスケ

〈歌〉新沢としひこ

〈創作〉いしいしんじ／柏葉幸子／斉藤倫／戸森しるこ

〈エッセイ〉石川直樹／大豆生田啓友／温又柔／辻仁成／

藤田智／メレ山メレ子／山崎ナオコ

〈書評〉岩瀬成子

〈ブックガイド〉兼森理恵／川端裕人／

聞かせ屋。けいたろう／ミムラ

